

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット2)

事業所番号	0172902116		
法人名	株式会社 健康会		
事業所名	グループホーム あけぼのⅢ Bユニット		
所在地	北海道旭川市忠和6条6丁目2番24号		
自己評価作成日	平成27年10月19日	評価結果市町村受理日	平成27年12月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaijokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&JigyosyoCd=0172902116-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミクス総合研究所 介保調査部
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階
訪問調査日	平成27年11月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

株式会社健康会として教育・安全・感染・接遇委員会があり、職員の能力に合わせて各委員会に参加し、委員が事業所で研修講師等として他職員の教育に周知し共有している。
理念に基づき、職員一人ひとりがきめ細やかな対応を常に心がけ、町内会や隣の保育園との交流、毎月行われる行事にも積極的に取り組んでいる。
法人内の訪問看護・メディアケアホーム・クリニックとの連携により、医療面での迅速な対応が可能。また、居宅介護支援事業所の依頼で、在宅にて行方不明になられ、警察に保護された方などのショートステイにも対応。 忠和クリニックとの連携により、住み慣れたホーム内での看取りを行っている。ご家族様の思いに出来る限り沿ったサービスを最後まで提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/> 1 毎日ある <input type="radio"/> 2 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3 たまにある <input type="radio"/> 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/> 1 ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3 たまに <input type="radio"/> 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1 大いに増えている <input type="radio"/> 2 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3 あまり増えていない <input type="radio"/> 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念の中に「地域の皆様と共に…」という紋々を掲げて職員や来訪者の目に留まり易い場所に掲げている。職員が業務中に迷った場合の判断の指針として定着している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	利用者様が近所の商店に買い物に行った場合に等気軽に声を掛けてもらえるような環境を作るように努めている。町内会の「運動会」「盆踊り」「新年会」等の行事にも事業所として積極的に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センター主催の地区懇話会等でのファシリテータや、研修会での講話を行っている。また、現在地域での認知症カフェに向けての実行委員としても参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	地域の皆様やご家族様、市職員様、他事業所の方々に参加頂き、当事業所の取組等を説明し、毎回貴重なご意見、ご感想を活動にフィードバックする努力をしている。また、避難訓練等を開催し、その都度意見を頂いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護課の担当者とは、利用者の情報を随時電話で情報交換をし、市職員には運営推進会議に参加頂くと共に、制度等で不明な点があった場合は都度ご相談に乗っていただいている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束を行っている入居者様はなし。必要に迫られた場合は「やむを得ず身体拘束を行う場合の対応」に基づき対応をする。帰宅願望等ある利用者様に対しても、その訴えを受容し、本人の行きたいところまで付き添うなどの対応をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で安全委員会が開催する虐待の研修会に参加したり、職員が外部の研修会にも参加し、参加者はユニット会議等で全スタッフに周知している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を申請されている方がおり、居宅介護支援事業所や生活保護課にも都度相談しながら、制度の理解に努めるとともに、現場職員には会議等を通じて学ぶ機会を設ける。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様とご家族様各々の状況を踏まえ、ニーズに合った対応を心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書の苦情、要望等の相談窓口の記載を説明すると共に、アンケート箱の設置や年4回の機関紙にも意見を募っている。また、運営推進会議で頂いたご意見、苦情についてはその都度対応をしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員とのコミュニケーションを図るよう努め、職員が運営に関する意見などを発言しやすい環境づくりを行っている。また、意見があった場合は、法人本部に都度報告し対応している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員毎の就労状況の把握に努め、ラダー評価を毎年行い、各個人毎の目標設定をするとともに、給与水準ややりがい、向上心などについても面談にて確認し、必要に応じて本部対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人目標を各自に設定させ、それを指標に評価している。また、法人内で実施している基礎研修を受講して、外部の研修にも参加できるように研修の情報を随時知らせている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	同一法人15事業所での委員会活動、法人行事等で交流を図っている。札幌等の遠方の研修にも各事業所から選抜された職員が一緒に参加している。同圏域内の他グループホームとの研修企画を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様が安心して生活が送れるよう、情報収集を行い、担当職員を決め馴染みの関係が築けるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必要に応じてホーム内だけではなく、自宅へ出向いてご家族様の要望等を聞きだし、本人や家族のニーズに応えられるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	センター方式を活用し、利用者様、そのご家族様からだけでなく、居宅ケアマネやサービス事業所からも情報を収集し、その情報を基に対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や掃除など、その人の潜在機能を見極め、共同生活を共にしている。一緒に食事を摂ったり、その時その時で、利用者様各々に合った日々の関わりを心掛け、信頼関係を築ける様にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じて都度電話連絡し、ご家族様の面会時には、ご本人の様子を報告すると共に、意見やアドバイスを頂いている。また、毎月お手紙を送付し、近況を報告するなど、信頼関係を築いていける様努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の状況に応じ、身内の方へのお見舞いへの同行、他の施設にいる家族との面会の為の家族同行外出を提案している。隣接するメディアケアホームとの行事合同開催を予定している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が円滑に会話が楽しめるように、必要に応じて介入している。また、生活空間の模様替え等、適宜対応。利用者様同士と一緒に調理や散歩等を行えるよう介入している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同一法人施設間での移動の際、情報提供とともに、ご本人様との面会やご家族様への相談支援の継続に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	パーソンセンタードケアの観点から常に最重要事項として検討されるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「センター方式」等を利用して各自の今までの生活履歴等を把握。可能な入居者様には日頃の話から若しくはご家族から聞き取り更に情報の付け足しを日常的に行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「生活シート」等を参考にしながらお一人お一人の一日の過ごし方を把握して中期的な状態変化の把握に役立てている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各入居者様の必要なケアについては日々職員間で話し合いを行いながら次期介護計画に反映させるようには努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録し、それを参考にしてモニタリングを行い介護計画の見直しに活用している。また日々記録の記入の方法は個別に話し合い改善している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ショートステイの受け入れ可能な条件は満たし、体制を整えている。今後入所を希望されている方の、「おためし利用」の役割も担っている。必要に応じて施設への移動も支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の商店に買い物に行く事ができる。近所の商店に行く道すがら顔なじみの近隣の方々と挨拶を交わすような関係性も維持できている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関との連携により、適時他の医療機関の受診を同行、またはご家族様にて受診している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様体調変化を適時管理者に報告している。また管理者の指示の下で管理者に代行して医療機関に上申し、指示を仰いでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関の相談員やご家族様を介して、利用者様の状態等の情報を頂き、入院中や退院前には再アセスメントを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化・看取りに関する指針に基づき説明と同意を頂き、リビングウィルを定期的に確認し、状態が著しく変化した場合は、主治医からのムンテラに出席し、ご家族様、医療機関と連携をとり対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についての研修に参加し、参加した職員はユニット会議等で全職員にフィードバックしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年に二回の「避難訓練」を確実に実施している。常日頃から近隣や町内会の方々との連携を図り緊急時により協力を仰ぎやすい体制の維持に努めている。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各入居者様の今までの人生経験に敬意を持ちながら対応している。日々の話しかけ時も親しいみのある言葉でも節度を持ち、馴れ馴れしい声掛けにならないように意識して対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人から自身の本当の思いを言い易い雰囲気や環境作りをしている。職員も入居者様のご希望があれば少しでも叶えられるように支援するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	各入居者様の体調や気分を重視している。体調不良をあまり表に出さない方もいるので各入居者様の様子を観察して疲労感あれば適時休んでいただく等の対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣介助が必要な入居者様に対しては、その日の天候等も配慮しながら一緒に何を着るか考えたり、服の種類や配色等も一緒に考え決定できるように配慮した支援を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	常に全入居者様が一緒に食事できるように配慮している。食事前の食卓準備や食材下ごしらえ、食後の下膳、食器洗い等も可能な限り入居者様にお手伝いいただきながらも、「全員一緒に食事をできる喜び」を感じてもらえるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	「生活シート」等を参考にしながらお一人お一人の「食事量」「水分量」を確実に把握して適時声掛けする。各入居者様の嚥下状態や嗜好等も考慮して、その時点で最適と思われる物を提供できるように常に配慮して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後お一人お一人に声掛けしてその人に適した形の口腔ケアを行っている。口腔ケアの重要性も十分理解できている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	各自の排泄パターンをアセスメントし、排泄サイクルを把握できるように努めている。その日の体調等も考慮しながら適時的確に声掛けする事で、トイレできちんと排泄できる事がより増えるような支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の飲水に「野菜ジュース」を取り入れたり、一日二回の「ラジオ体操」時に身体を動かす運動も一緒に取り入れる等、「順調な排便」の重要性を全職員が理解して日々の業務にあたっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入居者様のご希望で、入浴日は臨機応変に対応し入浴がお嫌いな方々も可能な限り気持ちよく入浴できるように配慮している。入浴時間に関しても今後柔軟に対応できるように話し合っていきたい。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各入居者様の身体状況を確実に把握、申し送りを行い適時的確に休息がとれるようにしている。就寝時も居室の温度や使用している寝具等細かく考慮して少しでも快適に安眠できるような環境作りを大切にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が「薬情報」等を参考にし、確実に各入居者様の薬の詳しい内容を理解し、服薬の支援と様子観察ができている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者様に合わせて家事のお手伝い等をお願いしている。今後は更にお一人お一人の嗜好や楽しみをもっと考慮して支援内容を発展させていくように話し合っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に外出行事や買い物行事を企画している。今後更なる支援の充実を図っていく為に、どのような仕組みを作るか検討している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が自由に使えるお金を所持されている方は数人いる。職員も入居者様がご自分の判断でお金を使う事ができる環境の重要性を理解しており、希望がある時には買い物の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在は入居者様が直接電話やお手紙を希望されるケースは少ないが、以前はお電話を希望される方も多くご希望時には積極的に支援していた。今後もご希望があれば支援可能である。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間が常に快適になるように温度や音、臭い等を職員が気を配っていくように指導している。また季節感のある装飾等も行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では限られたスペースの中で可能な限り和やかに過ごしていただけるよう配慮し、各種家具の配置を考慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各入居者様の状態や嗜好に合わせて、居室内を可能な限り「ご自分のお部屋」と認識し馴染んでいただけるよう、家具の配置や室内装飾を工夫するよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は各入居者様の動線や落ち着く場所等考慮して「移動し易く」且つ「安全性が損なわれない」ように配慮され、状態変化により都度小規模変更がされている。		